



橋本市民らにワクチン接種をしてきた紀和病院＝2021年8月3日午後1時26分、橋本市岸上、高田純一撮影

なぜうちの病院にだけワクチンが来ないの？——。
新型コロナウイルスのワクチン配分をめぐる、和歌山県橋本市の民間病院が困惑している。市内で主要な接種の担い手だったのに、8月中旬以降の供給予定がゼロに。個人病院の窓口となっている市保健福祉センターに大半が割り当てられた。なぜなのか。病院は、医療法人南労会紀和病院（同市岸上）。病床数287、常勤・非常勤69人で、市民病院と並ぶ規模だ。地域医療を支える二次救急指定病院でもある。

紀和病院は、3月から橋本市と周辺3町の医療従事者へ優先接種を始めた。平日休めない住民に配慮して5月17日からは土曜日の接種態勢も整え、7月末までに多い日で300人に対応して約6千人に接種した。橋本市によると、65歳以上の接種対象2万1352人の2割を紀和病院が接種したという。

7月、国からのワクチン供給が大幅に減ることが判明し、紀和病院もある程度の減少は覚悟した。だが予想を上回り、一つも入らない見通しとなった。

市への供給分をどう配分するかは市が決める。8月16日～9月下旬に配布されるものについて、市は7月16日、ワクチンを冷蔵可能な3施設の関係者が集まった会議「新型コロナワクチン予約再開にかかる協議について」で、市保健福祉センターに11箱（1箱1170回分）、市民病院に1箱、紀和病院へはゼロとする案を示した。

8月上旬までの配分は、集団接種を実施して個人病院の窓口でもあるセンターが44箱に対して、市民病院9箱、紀和病院10箱。これまでの配分割合からも大きく減った。

紀和病院側には協議前、ゼロになることを告げられていたが、他の施設も一律にゼロになると思っていたという。なぜ紀和病院はゼロなのか。

市の説明「医師会への配慮」

市の吉田健司・ワクチン接種統括責任者（前健康福祉部長）は紀和病院に対して「伊都医師会への配慮だ」と明言した。伊都医師会は市内にある全37の医療機関が会員。紀和病院も会員だが、会員の大半は個人病院が占める。

吉田統括によると、市は7月初め、ワクチン接種の新規予約をいったん停止するよう、市内の全医療機関に通知した。だが、ワクチンがさらに配分されることを見越してすでに9月末まで予約を受け付けていた個人病院や、通知を聞き入れずに予約を受け付けた個人病院があり、こうした機関から「キャンセルしたくない」と申し出があったという。

吉田統括は、朝日新聞の取材に対して、今後も市内でワクチン接種を円滑にすすめるには個人病院の協力が欠かせず、キャンセルなどの混乱を避けるためにも今回は個人病院向けを優先したとしている。

市民病院の1箱は、今後始まる12～15歳対象の接種向けと説明。小児科がない紀和病院ではなく市民病院への配布としたという。

「ルールを守らなかったのに優先はけしからん」

紀和病院の若杉正樹事務長は「実績があるにもかかわらず、配布がゼロになり、不公平感が生じている」と話した。ルールを守らなかった個人病院が優先された方針には「市全体で早めに接種できればいいが、ルールを守らなかったところが優先されるのはけしからんと思う」と憤る。

紀和病院は、7月27日に市に質問書を提出したものの、納得いく回答が得られていないとして説明を求め続けている。吉田統括らが紀和病院に出向いたのは8月6日。これまでの「ゼロ」方針を撤回して、ワクチン1箱を紀和病院に配分すると口頭で説明した。市民病院がコロナ患者の対応に追われ、12～15歳対象の接種を個人病院も対応することになったため、市民病院への配分分などを回すとしている。求めている謝罪はなかったという。

9月10日をめぐりに配布するとして土井加奈子健康福祉部長名の書面が13日、市から病院に届いた。若杉事務長は「まだ納得はいかないが、予約の受け付けを始めたい。質問書のきちんとした回答は引き続き求めたい」と話した。

吉田統括は「今回は個人病院優先の方針だったが、紀和病院側の不満が高まっていたので変更した。紀和病院の協力は必要。今後は接種率の実績に応じた配分をしていきたい」と釈明した。（高田純一）